

傍示本の辻地蔵めぐり

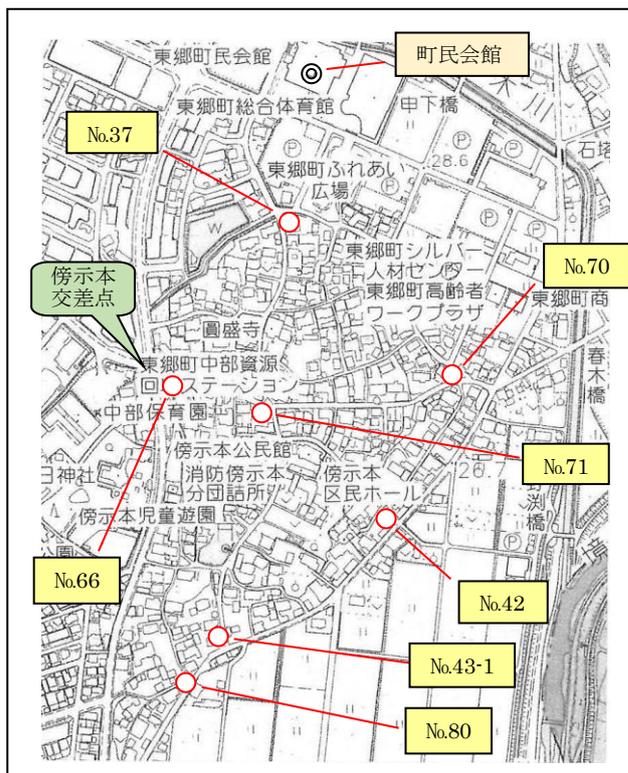
旧集落内の道を歩いているとお地蔵さんを見かけます。誰がいつ頃、何のために設置したのでしょうか？

でも誰かがお花を添えてお世話していて、地域で大切にされていることが感じられます。

旧地区内の細い道沿いには、お地蔵さんのほかに道標や五輪塔など、いろんな石造物に出会うことがあります。

傍示本地区内では、たくさんの辻地蔵に出会うことができます。先人たちの日々の暮らしの中に「村中安全」や「家内安全」、「疫病退散」などの思いを込めて大切にされてきたのでしょう。

村の歴史や土地に対する村人たちの温かい心が、辻地蔵とともに今も生き続けています。



No.37 春木字「中通屋敷」の辻地蔵

傍示本集落の北口といえる場所で、町民会館から徒歩5分の位置にあるお地蔵さんです。

住宅開発の影響で、今まであった場所での存続が心配されましたが、地主さんと傍示本区の協力で、現在も同じ場所で祠の中に安置されています。

像の左右に文字があるようですが摩耗で読めません。

像形 赤いよだれ掛けの中に両手で宝珠を持っています。

(像高 55 cm、幅 28 cm)



No.37

No.42 春木字「市場屋敷」東南の辻地蔵

傍示本集落の東南口といえる場所で公民館を東へ下り、字東前田と接する字界の道路沿いにあるお地蔵さんです。

こちらも祠の中に安置されていて、像の左右に「大正十二年」「八月」と書かれています。台石にも文字が刻まれているようですが、読めません。

像形 両手で宝珠を持っています。(像高 43 cm、幅 21 cm)



No.42

No.70 春木字「市場屋敷」東の辻地蔵

県道名古屋諸輪線沿いで、傍示本地区の東口といえる場所で、美容室の向かいのY字交差点角の祠の中で人々を見守ってくれています。

像形 両手で宝珠を持っています。

(像高 37 cm、幅 21 cm)



No.70

No.71 春木字「市場屋敷」中央の辻地蔵

傍示本公民館の北側 T 字路に安置されているお地蔵さんです。
像の左右に「右ゆうふくじ 左みよし」と刻まれており、**道標**としての役割も担っていたようです。

台石にも文字が刻まれていますが、コンクリートで埋もれているため全体を読み取ることができません。

「大正十四年 … 中… 南… 講…」の文字が確認できます。

像形 右手に錫杖、左手に宝珠を持っています。(像高 50 cm、幅 26 cm)



No.71

No.43-1 春木字「中屋敷」の辻地蔵

傍示本地区の南口といえる場所、公民館を南へ下り「字西前田」と接する字界の道路沿いにあるお地蔵さんです。

像の左右に文字が刻まれていますが、読めません。

像形 胸前で両手を合わせ合掌しています。

(像高 49 cm、幅 24 cm)



No.43-1

No.66 春木字「北所屋敷」西口の道標辻地蔵

傍示本の信号交差点を東へ進んですぐ右側に安置されているお地蔵さんです。祠に入っていないので地蔵尊像を間近で見ることができますが、風雨の影響で表面が脆(もろ)くなっています。

刻まれた文字は、現在ほとんど読み取れませんが、昭和50年代の調査時には、正面に「左 あざぶみち 右 くつかけみち」とあり。

背面に「右 なごやみち なるみ … … 尼」の文字が確認されています。こちら**道標**としての役割を担っていたようです

像形 両手で宝珠を持っています。(像高 42.5 cm、幅 41.5 cm)



No.66



No.80 春木字「西前田」の辻地蔵

傍示本集落の南口「旧かどや」さんの西側にあるお地蔵さんです。

像形 両手で宝珠を持っています。

(像高 46 cm、幅 23 cm)

No.80

部田地区では、県道名古屋岡崎線の道路沿いや県道瀬戸大府線の道路沿いで、みよし市や豊明市との境付近に庚申像(青面金剛童子)が祀られています。
集落外からの疫病や災難の侵入を防ぐため、村人の願いや祈りの場として祀られたのでしょう。